

伊藤忠商事東京本社ビル

TOKYO HEAD OFFICE OF THE C. ITOH CO., LTD.

所在地———東京都港区北青山2-5-1

建築主———青山地所株式会社

設計者———株式会社 日建設計

施工者———株式会社 間組

竣工———昭和55年10月

location———Tokyo

owner———Aoyama Estate Co., Ltd.

architects———Nikken Sekkei, planners, architects and engineers

contractor———Hazama-Gumi, Ltd.

completion date———October, 1980

概要

建築概要

敷地面積 19,480m²建築面積 7,550m²延床面積 112,860m²構造規模 鉄骨造, 鉄骨鉄筋コンクリート造,
鉄筋コンクリート造

地下4階, 地上22階, 塔屋1階

仕上げ概要

外装 屋根: アスファルト防水, 押えコンクリート木鎔仕上げ, 耐候性鋼板大型瓦棒葺き 外壁: 花崗岩打込み, プレキャストコンクリート, 煉瓦タイル 建具: アルミ電解発色, ステンレス鏡面仕上げ

内装 玄関ホール 床・壁: 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 天井: 天窓, 一部ステンレス鏡面厚2/玄関ロビー 床・壁: 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 天井: アルミ電解発色光天井/基準階事務室 床: カーペット敷込み厚7.5 壁: 軽量鉄骨下地, プラスターボード厚12二重貼り塗装 天井: 岩綿吸音板厚15/役員階ロビー 床: カーペット敷込み 壁: 大理石F仕上げ 天井: アルミ磨き仕上げ, 光天井, クロス下地塗装

設備概要

衛生 給水: 高架水槽による重力式, 一部加圧送水方式 給湯: 中央給湯方式, 一部個別電気貯湯式 中水: 膜濾過方式

空調 熱源: 炉筒煙管式蒸気ボイラー3台 冷凍機: 吸収式冷凍機+ターボ冷凍機6台 空調方式: 各階ユニットによる二重ダクトVAV方式とファンコイル併用による年間空調方式

消火 スプリンクラー, 泡消火, ハロンガス消火, 屋内消火栓, 連結送水管

近江 栄 Sakae Ohmi
内井 昭蔵 Shozo Uchii
越山 欽平 Kimpei Koshiyama

青山通りに面して建てられたこの建築は、最近数多く建てられている事務所建築の中でもとくに優れたものだと思う。

本社ビルということもあって、多くの独自の工夫やデザインが見られ、それらがすべて成功し、次の時代の事務所建築に多くの示唆を与える建物であると考えられる。

たとえば中央部に設けた巨大な吹抜けであるが、これは自然光をできるだけ事務空間の奥まで入れようという試みである。これにより省エネはもちろんだが、それよりももっと重要なことは、ややもすれば画一的になりがちな事務空間に独自の雰囲気と居心地のよい居住性を与えている。さらに内部はすべてこの吹抜け空間に向かって開放され、中央の光庭を透して向かい側や上下階のオフィスが見え、通常、各階ごとに分断されてセクショナリズムに陥りがちな事務空間を、視覚的に一体化するのに成功している。同じ企業の中で働く人々が、この空間を媒体としてひとつになるということは、実にすばらしいことだといえるだろう。商社としては、とりわけ大切な縦横の連絡

に対する即応性が求められるが、単に機器によるものにとどまらず、視覚による人間的コミュニケーションを可能にしたことは、この建築の設計のポイントであり、優れた方法である。

そのほかにも世界経済の中心的役割を果たすための入念な対策が随所に見られ、正に近代事務所建築の先端をいくものである。設備面でも空調に工夫を凝らし、自家発電装置を夏の冷房時に使用して電力のピークをカットしたり、外気冷房、排熱をゾーニングで処理して、方位による熱の差をバランスさせるといった細かい配慮をしている。また最近では常識となっているが、ダブル配管により中水を便器の洗浄水に使用し、雨水をすべて中水用の補給水として用いるなど細かい設計になっている。

デザイン面でも、施主から要求された商社にふさわしい風格、品位、機能を十分に兼ね備えている。巨大な壁面を覆う石材はサウスダコタ産とのことだが、その材質を巧みに生かし彫りの深い落ちついた表情をつくり出している。

spaces on the light shaft gives spatial continuity among levels and thereby eliminates the sense of floor-by-floor isolation common in many office buildings. In this case, a person on one side of the shaft can see what is happening on several stories on the opposite side. In other words, a sense of oneness is generated among all the people working in the building because of the visual integration produced by the light shaft. And this is an extremely laudable architectural achievement. Horizontal and vertical connection is vital to commercial architecture; but this building is especially impressive for the way it transcends mere physical and mechanical movement lines to stimulate human communication by means of open vistas and sight lines.

As is suitable for a huge business firm occupying a place of international importance in world economics, the building represents the latest develop-

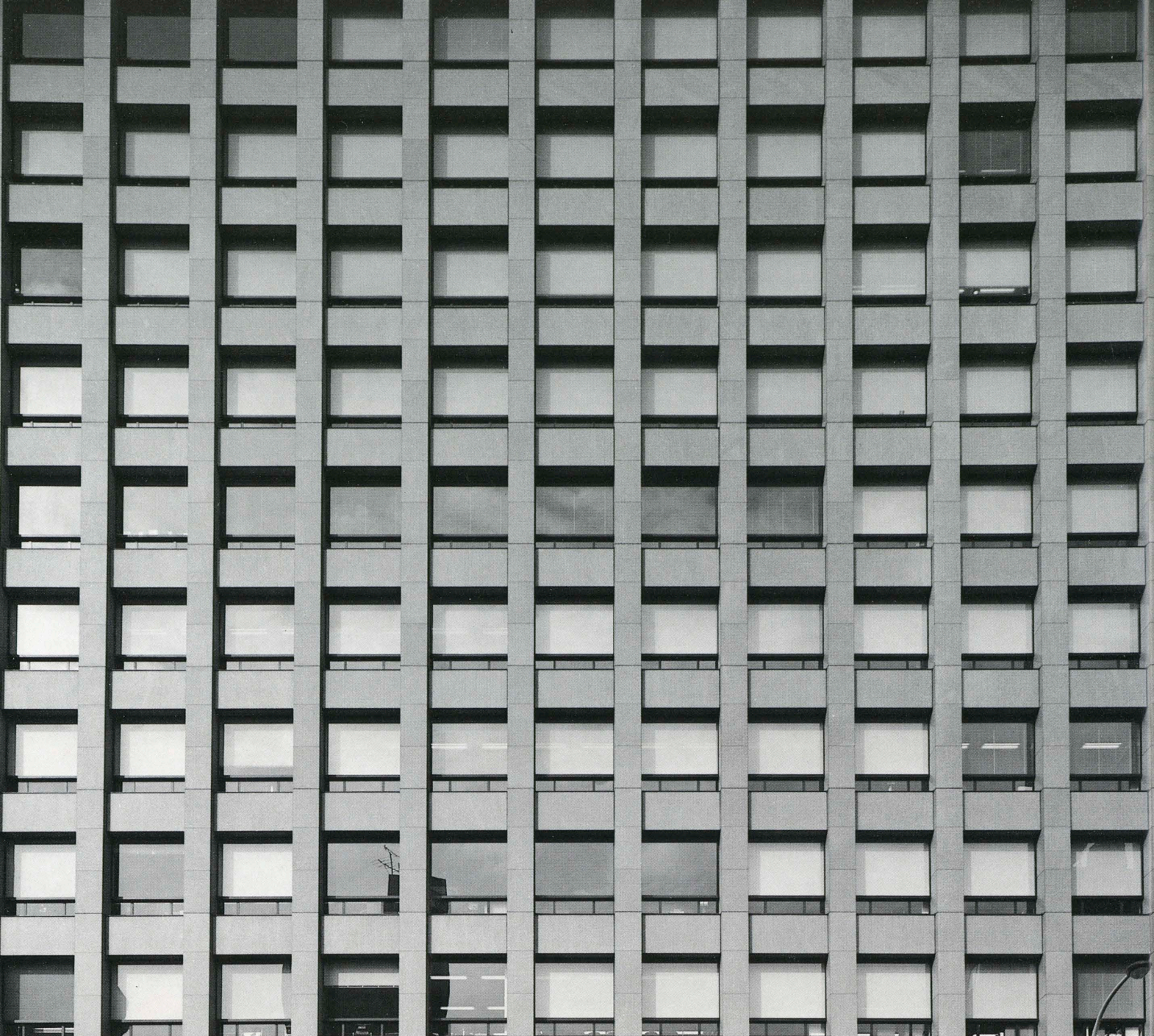
この建築は総合設計制度により計画されており、背後に神宮外苑への入口部分になるプラザを設けているのも特徴となっている。このプラザは一部サンクンガーデンの手法を取り入れ、水を用いた環境デザインとともに、都市のオープンスペースとして好ましい空間を提供している。しかし、残念なことにこのプラザは、事務所棟に対して多少の違和感はまぬがれない。これはとくに管理面での安全上の要求から分離したとの説明があったが、もう少し高層の建築との処理が一体化されたら、地域環境とのなじみもよかったのではないかと惜しまれる。

施工精度についてみても、他の建築物に比べ群を抜いており、各部ディテール、納まり等、実に見事なものであった。これだけの規模と内容をもつ建築を、30ヵ月という短期間にまとめ上げた施工の力量は大変なものだが、施主、設計者、施工者が力を合わせひとつとなったことが、このような立派な建築をつくり上げたのだろう。

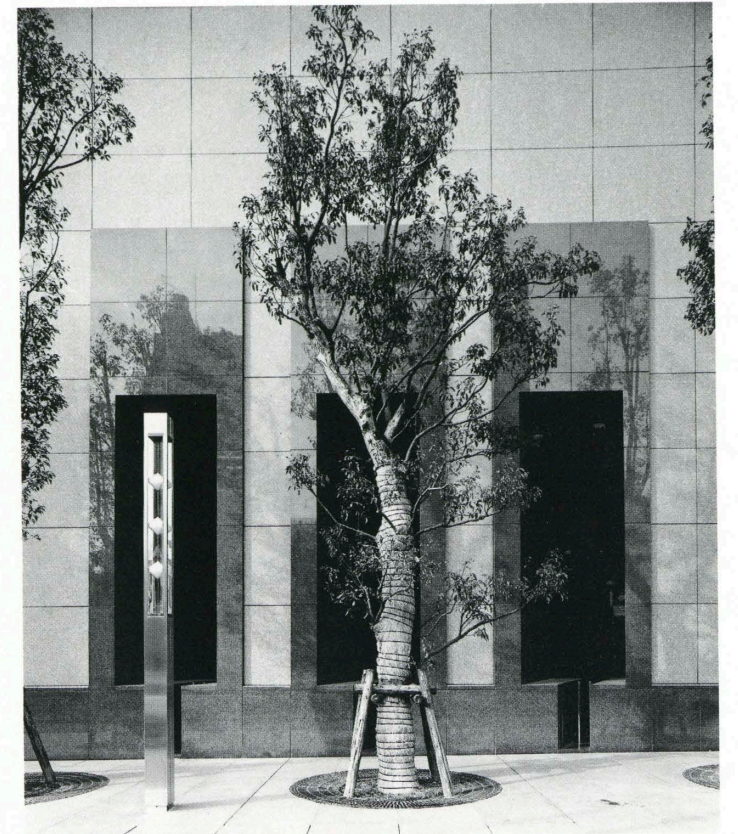
ments in terms of equipment and conservation systems. Domestic electrical generators are employed for cooling in order to cut down on consumption of outside electrical power during summertime. Outside-air cooling and heat exhaust are handled according to zone, and thermal differences are balanced according to compass direction. In addition, the building employs double plumbing — now accepted architectural common sense — to recycle water for use in toilets and to store and reuse rainwater.

The client required that the building have a dignity suited to the corporate image of C. Itoh and that it meet all functional needs. Huge exterior wall surfaces are covered with a South Dakota stone that produces a restrained, but dramatically lighted overall appearance.



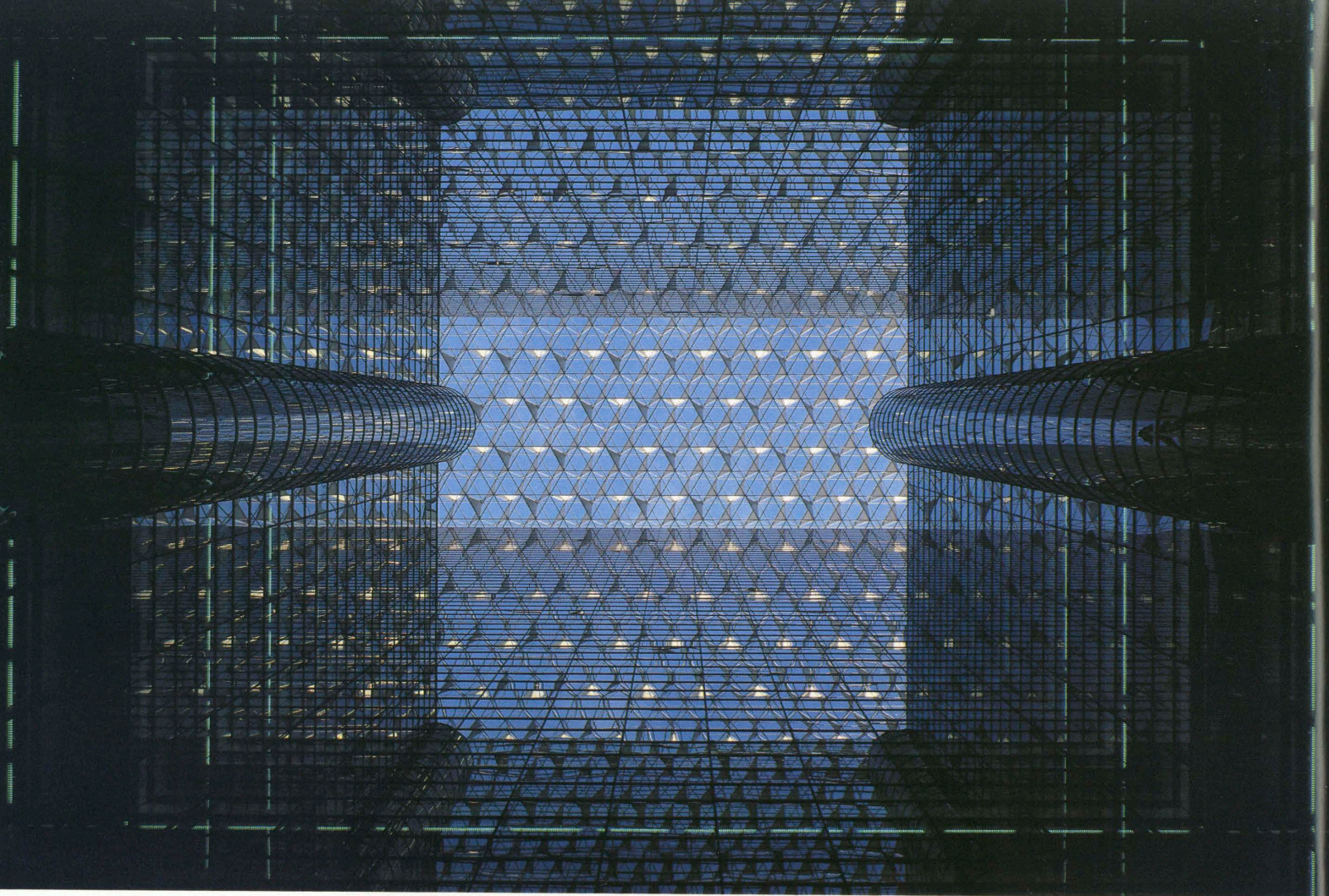
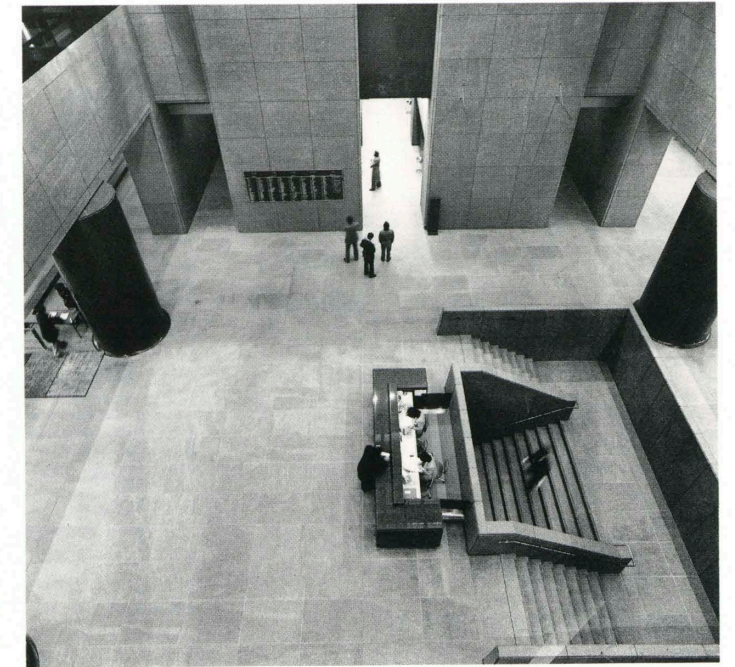


左頁：南側入口
上：外観見上げ
右上：南側外壁
下：CIプラザ見下ろし



facing page: South side entrance
top left: Upward view of the exterior
top: Exterior wall on the south side
bottom: Downward view of CI Plaza





facing page, top: Upward view of the light well
facing page, bottom: Night view of the light court
left: Entrance hall
top: Downward view of the entrance hall
bottom: Entrance lobby



上：光庭見上げ
左：光庭夜景
右頁左上：玄関ホール
右頁右上：玄関ホール見下ろし
右：玄関ロビー



